

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島県立たむら支援学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V
2 実施対象者 (学年・人数)	高等部生徒 第1学年 13名、第2学年 10名、第3学年 5名 合計 28名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (船引高等学校とのフライングディスク交流会) (ボッチャ講習会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目 標 (ねらい)	【フライングディスク交流学習】 ・船引高等学校の生徒との交流をとおして、両校生徒の相互理解を図る。 ・フライングディスク競技の活動をとおして、障がい者スポーツの意義と共生社会についての一助とする。 【ボッチャ講習会】 ・パラリンピック競技大会種目であるボッチャ競技の体験をとおして、オリンピック・パラリンピック競技大会への関心を高める。 ・パラリンピック競技大会や障がい者スポーツの理解を深め、共生社会の実現にむけた豊かな人間性を育む。
5 取組内容	【フライングディスク交流学習】  ・船引高等学校生徒30名と本校高等部生徒28名が、フライングディスクをとおして交流学習を行った。 ・フライングディスクの持ち方や投げ方、ルールについて学習した。 ・船引高等学校生徒が6チーム、本校高等部生徒が6チームに分かれ、フライングディスク対抗戦を行った。

	<p>【ボッチャ講習会】</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・福島県ボッチャ協会の國分章夫氏による講習会を実施。パラリンピック競技大会種目である「ボッチャ競技」について学習した。 ・ボッチャ競技のルールや試合の進め方、戦術等について実演を交えながら指導していただき、実践をとしてボッチャを学ぶことができた。 ・6チームに分かれ、ボッチャ対抗戦を行った。
<p>6 主な成果</p>	<p>【フライングディスク交流学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両校の生徒にとって、互いを知る良い機会になった。 ・対抗戦の運営では、ディスクを渡す係や記録係、ディスクを回収する係を生徒同士で行うことにより、両校の生徒同士の自然なやりとりの中で相手を思いやったり、協力したりする姿が見られた。 <p>【ボッチャ講習会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚教材を活用した学習をとおして、オリンピック・パラリンピック競技大会への機運を高めることができた。 ・実践形式での試合をとおして、仲間と共にスポーツをする楽しさや相手と競い合うスポーツの魅力に触れることができた。 ・パラリンピック競技大会種目であるボッチャの体験学習をとおして、パラリンピック競技大会をより身近に感じることができた。 ・生徒の感想から、「パラリンピック大会のボッチャを見たい。」や「体育の授業でやってみたい。」など、パラリンピック競技大会やユニバーサルスポーツへの関心を高めることができた。
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって有意義な学習を積むことができるように、生徒に身につけたい力や必要とされる力から題材設定や学習内容を検討し、講師選定を行った。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピアン等の競技者による講演及び実技指導も検討したが、予算の都合上断念せざるを得なかった。 ・オリンピック・パラリンピックへの興味関心をもつことについては、一定の効果が得られたが、持続するための学習を他の授業や教育活動において連続的かつ継続的に展開することが難しかった。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・船引高等学校との交流学習については、スポーツを通じたインクルーシブな社会の構築に繋がる効果的な取り組みであったことから、次年度以降も学部行事として設定し、継続的に実践していく。 ・今年度学習した内容を踏まえ、保健体育の授業において、パラリンピック競技大会の種目を設定していく。 ・各教科及び総合的な学習（探究）の時間等においても、継続的に学習を行うとともに、大会終了後も経済効果や社会への影響等についても触れながら指導していく。

